



令和6年能登半島地震に伴う 緊急消防援助隊派遣（6）

令和6年1月1日（月）16時10分に石川県能登地方で発生した最大震度7（M7.6）の地震に伴い、当署も「緊急消防援助隊愛知県大隊 消火小隊」として石川県輪島市に災害出動しました。今回は五次隊として、1月13日から1月17日まで活動した隊員に話を聞きました。



海部東部消防署警備第一課の瀧本です。
能登半島地震では緊急消防援助隊愛知県大隊五次隊消火隊の隊員として災害出動しました。

瀧本さんは現地で救急支援隊としても活動されたと伺っています。
普段の救急活動と比べて違いはありましたか？



現地では被災地に近づくにつれて、道路がひび割れ、倒壊建物が徐々に増えていきました。天気も4日間を通じてほぼ雪であり、夜になると氷点下になることもありました。救急支援隊としての活動では1件の救急出動でも数時間要する案件がほとんどで、待機場所から要請場所までも土砂崩れや通行止め区間が多く、普段の数倍の時間を要していました。そのような過酷・不安な状況におかれている方に接するため普段よりも言葉遣いや接遇に気を使い、少しでも不安が解消されればという気持ちで活動していました。

ありがとうございます。
雪が降り続く中での活動お疲れ様でした。



【災害派遣を終えて】

派遣隊への温かい応援ありがとうございました。
今回の災害派遣で経験したことを、今後起こりうる南海トラフ巨大地震や普段の消防業務に生かしていきたいと考えています。
今後も職員一同精進いたしますのでよろしくお願いいたします。
（写真右から2番目）